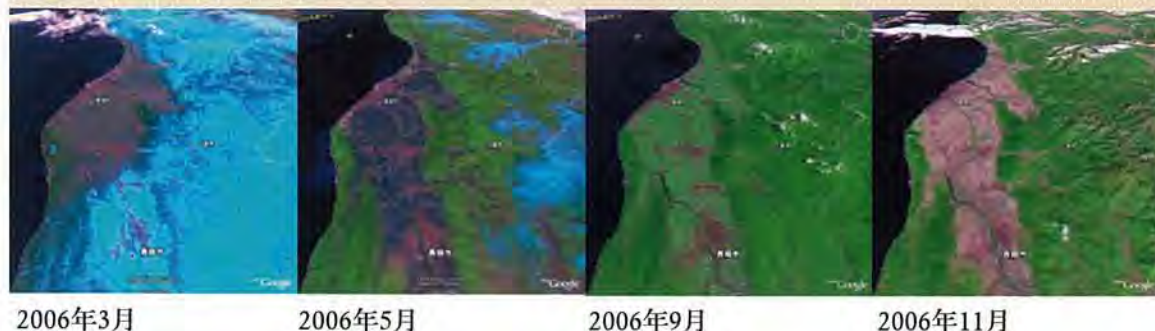


■ Google Earth※で衛星画像と地図を重ねて表示ができる ■

研究情報センターでは、NOAAやMODISなどの人工衛星で撮影された画像をデータベース化しており、自由にダウンロードできます。特に、MODISの画像は解像度250mで日6回のデータがありますので、経時的な解析に向いています。また、視界の良好な条件の日の画像を月数回の頻度でGoogle Earthで閲覧できる形式(kmlファイル)として提供しています。このファイルを使うと、各自が手持ちの地図情報などと画像とを重ね合わせた表示が可能となり、迫力のあるプレゼンテーションに向いていますので、リモートセンシングの専門家以外の方々もふろってご利用下さい。

これらのデータベース利用希望の方は、Agropediaの農林水産研究衛星画像データベース(SIDaB)のサイト(下記参照)にアクセスして下さい。

※... GoogleEarth...Google,Inc.提供の無料地球表示ソフト



■画像説明:GoogleEarthでみたe越後平野のMODIS衛星画像。
3月、5月の画像にみられる水色は積雪を表し、5月の濃い青色は水の張った水田を表しています。

<http://www.affrc.go.jp/agropedia/>

■ 計算センターの利用継続手続きはお済みですか? ■

農林水産研究計算センターの全利用者は、計算センター運営規程により毎年度末に「農林水産研究計算センター利用報告書」を提出することになっています。これは、次年度の継続利用の申請を兼ねていますので、みなさま、忘れずに下記URLから平成19年3月30日までに報告をお願いします。

〈農林水産研究計算センター利用報告〉

<http://www.affrc.go.jp/year-end/>

■ APAN(アジア太平洋高度ネットワーク)の有効活用について ■

APAN(Asia Pacific Advanced Network)は、アジア太平洋地域のネットワーク応用技術の開発等を目的として1996年に設立された研究ネットワークの協議会で、日本、中国、韓国、アメリカ、オーストラリアなどアジア太平洋地域の15ヶ国が参加しています。

APANでは、国際通信回線を相互利用した効率的な国際研究ネットワークが構成されており、日本からは、MAFFIN(農林水産省研究ネットワーク)、文部科学省傘下のNII(国立情報学研究所)、総務省傘下のNICT(情報通信研究機構)が参加しています。

APANの国際研究ネットワークを活用し、農林水産分野では、

- ・全世界のゲノム情報を共有するバイオミラープロジェクト
- ・IRRI(国際稲研究所)との遺伝資源情報の共有
- ・中央農研センターが開発したフィールドサーバ(Webサーバや気象センサーを搭載した分散型モニタリング装置)を活用したモニタリングシステム



等、世界的にも高い評価を受けている研究成果が発表され、様々な研究活動が進められています。このAPANの定期会合が、平成19年1月22日~26日、フィリピンのマニラで開催され、15ヶ国、約300名が参加しました。フィリピン科学技術庁長官やIRRI所長の基調講演をはじめ、各ワークショップが開催され、異常気象、地球温暖化対策に向けて、APANネットワークを有効活用する呼びかけ、アジア各国の大学病院とAPANマニラ会場を結んだ高画質の遠隔医療診断の試みや鳥インフルエンザに関する情報共有・討論が行われ、非常に盛況な会合でした。

筑波農林研究団地一般公開

■ テーマ「体験! 農林研究の今」

公開日: 4月20日(金) 10:00~16:00<筑波農林研究団地一斉公開>

4月21日(土) 10:00~16:00<つくばリサーチギャラリーのみ>

<http://www.affrc.go.jp/ja/info/openhouse/index.html>



ニュースはWebで
発信しています。

<http://www.affrc.go.jp/ja/info/news/>

トピックス:

3月20日(火)
第3回中間評価委員会

3月28日(水)
つくばWANシンポジウム(筑波大学学生会館)

4月20日(金)
農林研究団地一般公開